

■福祉心理学科 カリキュラムマップ

福祉心理学科 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

福祉心理学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 人間理解力

- ① 基礎的知識：心理学の基礎的知識を用いて、人の思考・感情・行動の原理や法則、理論について説明できる。
- ② 専門的知識：心理学の専門的知識を用いて、自己を含むさまざまな人の思考・感情・行動について、その意味とその理由、自分や社会、生活との関連について説明できる。
- ③ 応用的知識：心理学の応用的知識を用いて、さまざまな人が抱えている心理的・社会的問題とその支援や援助について説明できる。

2. 自他尊重的・共感的コミュニケーション力

- ④ コミュニケーション力：コミュニケーション・感情・人間関係・社会的スキルに関する心理学の知識と技能を活用して、他人の話をよく聞き、共感的に傾聴し、自分とは異なる意見を持つ人とも互いに尊重しながらコミュニケーションをとることができる。

3. 他者配慮表現力

- ⑤ レポート作成力：表やグラフを活用して心と行動に関するレポートを他者にわかるように作成することができる。
- ⑥ ICT活用力：情報コミュニケーション技術(ICT)を用いて心と行動に関する情報収集・分析・プレゼンテーションを適切に行うことができる。

4. 問題解決力

- ⑦ 論理的思考力、クリティカルシンキング力：認知・学習・思考に関する心理学の知識と技能を活用して、多角的な視点から論理的に分析できる。
- ⑧ 問題解決力：個人・個人間の関係・集団における問題を発見し、その問題の解決・調整に必要な情報の収集・分析・整理し、その問題を解決・調整できる。

5. 自己コントロール力

- ⑨ 自己管理能力：自己理解・セルフコントロールに関する心理学の知識と技能を踏まえて自らを律して行動できる。

6. 対人調整力

- ⑩ チームワーク、リーダーシップ：チームワーク・リーダーシップに関する心理学の知識と技能を踏まえて、他者に配慮しながら、目標と問題を共有し、協調・協同して行動できる。

7. 社会貢献力

- ⑪ 倫理観：倫理・道徳に関する心理学の知識と技能を踏まえて、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できる。
- ⑫ 市民としての社会的責任：社会化・向社会的行動・社会貢献に関する心理学の知識と技能を踏まえて、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に社会に関与できる。
- ⑬ 創造的思考力：心理学の知識・技能・態度を統合的に活用し、自ら課題を設定し、実験・調査などを行い、分析・整理して独自の解決法・解決案を導き、社会に貢献できる。

学士力では、①～③が知識・理解、④～⑧が汎用的技能、⑨～⑫が態度・志向性、⑬が統合的な学習経験と創造的思考力にあたります。

科目コード	科目名称 (旧カリ=旧カリキュラム受講者用科目)	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係 (◎特に重要、○重要、△望ましい)																
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬				
AA1001	禅のこころ	禅といえばあなたは何を連想するでしょうか。たいいてい人は、薄暗い禅堂で足を組んで、目を半分閉じてじっと座っている僧を連想するでしょう。また、実際に座禅を体験したことのある人は、足のしびれや、じっとしていることのつらさとともに、静寂な時間の新鮮な経験や終わったときの爽快感などを思い出すでしょう。私たちはまた、禅がさまざまな文化現象にかかわっていることも知っています。禅僧の書いた文章、書、墨絵に高名なものが数多くあります。茶の湯や能などの伝統芸能、剣道などの武芸にも禅の精神は生きています。つまり、禅は心を静め、精神を統一し、自らの感性を高めるなかで美意識や自己探求と深くかかわってきました。さらに、禅はストレスの多い生活のなかで不安や悩みを抱える人、あるいはもっと深く、人生の根本問題と向き合っている人、それらの人にとって問題解決のための手段のひとつともなってきました。以上、禅に関することをいくつかあげてみました。この科目では、通信教育という制約があるため、禅がどのような思想か、また歴史的にはどのように発展してきたのについて理解することを目的とします。しかし理解といっても、歴史、人物、思想内容という事柄の理解だけを求めているのではありません。禅とかかわるなかで、自分とはなにか、生きるとはなにか、人生とはなにかという問題意識をもってもらいたいと思います。	1) 禅の歴史と思想について簡潔に説明できる。 2) 日本文化と禅の関係について簡潔に説明できる。 3) 道元の思想の特徴を簡潔に説明できる。 4) 各自で坐禅を体験してみる。					◎		◎	○	◎		○					△	
AB1002	ボランティア論	ボランティアが地域社会に果たす役割、また地域社会から寄せられる期待は、年々大きくなっています。世間一般にいわれているボランティアとは、どのようなものなのでしょうか。また、なぜ地域社会ではボランティアが必要とされるのでしょうか。ボランティアの基本的理念、またボランティア活動の具体的事例や活動の現場で今のようなことが問題になっているのか理解を深めましょう。	1) ボランティア活動の定義について説明できる。 2) ボランティア活動の意義と社会的役割について説明できる。 3) 地域社会におけるボランティア活動の実践者あるいは推進者として行動するための知識を理解し説明することができる。 4) ボランティア活動に関わる制度およびその活用法について説明できる。	○		◎	△	◎		○	◎	○	△	○	○					◎
AB1020	科学的な見方・考え方	現代の生活において、メディアでは数多くの情報が瞬時に飛び交い、欲すれば余りあるほどの情報が容易に手にできるようになりました。しかし、自分では十分に理解していると感じている情報をいざ誰かに説明しようとしてみると、意外とうやむやな理解であったり、矛盾を指摘されて誤解に気付いたりすることもあるようです。さらに学習のために調査し多くの事例や資料をまとめていく作業においても、先に結論ありきな論理の飛躍や矛盾に気付かないままに進めてしまうケースが見受けられ、指摘されると気付く場合も多いようです。特に通信教育のように「書いたもの」のやりとりがメインである場合には、「そういうことが言いたかった（書きたかった）」「そういう意味も含めて書いた」と思っ書いていても、実際に文字になって表れていなければ読み手側には全く伝わりません。またどんなに素晴らしい意見やもっともらしい結論であっても、そこに至る道筋（説明）が納得のできる展開になっていなければ、単なるアイデアやひらめきと言われても仕方ないことです。池内了は『科学の考え方・学び方』の中で、いわゆる理系分野である自然科学では科学の構造を「自然現象—「物質の運動」—「法則」というつながりと考えることができる、と説明しています。さらに、深く考察すれば人間や社会の動きにも一定の法則性が認められ、どのような原理のもとに、どのような行動（運動）をとったか、それはどのような結果（現象）になったかというつながりの中で理解できる、と続いています。ここにも「現象」—「運動」—「原理」という構造があるというわけです。大学では後者を人文科学と呼んでいます。他にも、社会を人間と対比した形とみなしてひとつの研究対象とする社会科学や、人間研究のうち特に人間行動にかかわる分野を行動科学とする分類などがあります。つまり学問として考えるということは、科学的に考えることを意味します。その考える過程では、突如としてアイデアやひらめきが生れたり、時には飛躍があったり堂々巡りがあったりするかもしれません。しかし科学的に考えたことを示すということは、結論までの道筋（説明）で生じている隙間を丹念に補い、誰にでも納得できるように簡潔な表現で全体を再構成することで、論理的に説明できることが要求されます。論理的に説明するひとつの方法として、資料（図または表）の利用があげられます。文章だけで進めるよりも、資料を提示しその分析結果を述べることで、わかりやすくより説得力が増す内容に上げることができま。本科目では自身の考えを論理的に組み立て、資料を利用して表現する力を養う一助となることを目指します。	1) 自分の意見を明確に述べたり、わかりやすく説明したりすることができる。 2) 聞かれていることに的確に答えることができる。 3) 資料で示されている内容を、正確に読み取ることができる。 4) 先入観や一般論を混在させずに、事実のみを根拠とすることができる。 5) 飛躍がないように論理を組み立て、他者を納得させることができる。 6) 科学的根拠により納得できたか否かを明確に判断できる。		○		△	◎	○	○	◎									◎
AB1332	情報処理 I	かつて、情報処理技術は、一部の専門家のみが扱う技術でした。しかし、近年では、電子メールによる意思疎通、ブログによる情報発信、さらには、SNS (Social Networking Service) を介する擬似社会の創出等、一般の人々にまで情報技術の利用が浸透してきました。一方、職業人における情報処理技術は、ワープロ・表計算といったソフトの操作、ネットワークとデータベースを利用した種々の情報管理・分析・活用と、専門性が特化されてきています。このような状況の下で、基本的な情報処理技術（統計処理等）を身につけておくことは必須のものとなっています。本科目では「情報機器の操作」として、Microsoft 社の Windows と Office の基本的な操作を習熟することを目的としています。	本科目の到達目標は、「データを自分で分析し、その内容を発信できるようになる」ことです。この目標を達成するため、 1) 文書作成技術の習得を目的とした Word の基本的な操作法の課題 2) 数的データ分析技術の習得を目的とした Excel の基本的な操作法の課題 をレポート課題として設定しています。そして、修了には、現実の統計データを与え、各々でそれを数値分析・図表化し、論理的な結論を導く課題を課しています。					◎	◎	○										
AH1003	福祉と経済	現代の福祉は経済システムの重要な一分野である。国民経済の稼ぎによって、社会保障や福祉の充実をはかるのみではなく、福祉の充実には経済成長の効果がある。そこで、ここでは①まず経済学とはどのような科学であるのか。経済学の考え方について学習してみよう。②国民の幸福度を高めるための政府の役割について学習してみよう。③国民所得水準は我々の生活そのものである。国民所得がどのようなプロセスで決定されるのか。④国民生活の安定をめざして総需要の大きさをコントロールする政策がとられる。それは具体的にどのような中味であるか。以上の点について学習してみよう。経済学は数字や式、図が多くてむずかしいイメージがあるかもしれませんが。少しの知識を身につけておくだけで、物の見方・考え方が変わってきます。視野も広まることでしよう。受講者はなるべくスクーリングにも参加してください。なおいっそう、福祉と経済のかかわりが理解できるようになることでしよう。楽しく学習できること、また学習の結果、社会の動きがわかり、楽しさが増えることを願っています。	1) 福祉と経済がどのように関わっているか、自分の考えを整理し、説明できる。 2) 社会保障が行われる根拠として、「分配問題としての市場の失敗」がある。これについて、解説できる。 3) 国民所得の決定プロセスについて、すなわち、総供給＝総需要、貯蓄＝投資で決まるプロセスについて、説明できる。 4) 有効需要の原理をふまえて、総需要管理政策について説明できる。とくに、アベノミクスとはどのような政策なのかについて説明できる。 5) 「混合経済体制、応能負担、応益負担、現物給付、現金給付」について説明できる。	◎	◎	○		◎		○	△							△	△	

FT2609	特講・福祉心理学 9 (コミュニティ心理学)	コミュニティ心理学は、1965年アメリカで誕生した、まだ新しい心理学と言えます。現代は、伝統的な個人心理療法だけでは解決できない多種多様な問題を抱えています。例えば、ひきこもりや虐待の問題は、相談室で待ち構えているだけでは、解決が非常に難しい問題です。コミュニティ心理学的アプローチでは、そのような心理・社会的な問題に対し、どのように取り組んでいるのでしょうか？心理的・社会的な問題は、専門家だけでなく、コミュニティに共に生きる全ての人々が、自ら考え、関わりを持っていくことで変化していきます。本講座を通して、そのような基本的な発想と姿勢を身に付けて頂ければと思います。	1) コミュニティ心理学の基礎知識について述べる事ができる。 2) コミュニティ心理学の発想をもった心理臨床家としての視点・基本姿勢について説明できる。 3) 様々な領域において、どのようなコミュニティ・アプローチがなされるか理解し、その上で、伝統的な個人心理療法との違いを説明できるようにする。	◎	◎	◎	◎								◎	○		○	○	○
FT2611	特講・福祉心理学 11 (受容と排斥の心理学)	人間の行動は単に個人的な要因のみによって説明できるわけではない。個人を取り囲む他者、集団・組織、社会、文化といったさまざまな環境的要因が単独で、また相互に折り重なり合いながら個人の行動に影響を及ぼしている。それら多様な要因の間の関連を的確に分析することで人間行動のより良い理解が可能となる。本講義では、このような人と環境との重層的な相互影響過程を的確に理解するための理論的枠組みを紹介する。また、実証的な研究のための方法論の解説も行う。これらの目的のための具体的なテーマとして「受容と排斥」を取り上げる。 (1)対人関係や集団・組織、社会からの受容と排斥が個人に及ぼす影響を及ぼすのか、 (2)対人関係の希薄化が人と社会にどのように影響するのか、 (3)それらの影響の具体的なメカニズムとはどのようなものなのか、 (4)受容や排斥を生み出す個人的ならびに環境的条件としてどのようなものが考えられるのか、 といったテーマについての研究を紹介し、人と社会のより良い関係とはどのようなものかについて考察する。	1) 対人関係や集団・組織、社会からの受容と排斥が個人に及ぼす影響を及ぼすのかを説明できる。 2) 1)の影響についての具体的なメカニズムが説明できる。 3) 1)と2)の理解を踏まえて、社会的排斥の悪影響を緩和するための具体的な方策が提言できる。	◎	◎	◎	◎							◎	◎	○		○	○	○
FT2612	特講・福祉心理学 12 (犯罪心理学)	日本は犯罪の少ない国と言われているが、それは事実なのか。近年、日本の犯罪はどのように変化してきたのか、現在の特徴は何であるかなど、犯罪の現状を正しく認識する。犯罪の原因については、貧困や差別などの社会的環境要因、性格や障害などの個人的要因、遺伝や生育環境などの発達要因などの関連から論じられてきた。それらに関する理論と実証的証拠を踏まえて、犯罪の原因を体系的に理解する。	1) 日本の犯罪の現状を説明できる。 2) 犯罪を誘発する社会的環境要因がなにか説明できる。 3) 反社会性の強いひとの個人的特徴がなにか説明できる。 4) 反社会性を形成する発達上の問題がなにか説明できる。	◎	◎	◎	◎							○	◎	○		○	○	○
ZZ5991	卒業研究	卒業研究は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものです。必修科目ではありませんが、学生時代に学問的な創造性を発揮し得る絶好の機会です。自分がかたして大学で何を学び身につけることができたのかを確認することもできます。時間的な余裕のある学生は履修することをお勧めします。	1) 卒業研究のテーマを見つけることができる。 2) テーマに関連した文献をレビューできる。 3) 研究の目的を考え、研究デザインをつくることができる。 4) 仮説を立てることができる。 5) 調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。 6) 結果について統計処理ができる。 7) 考察を行い、論文としてまとめることができる。	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	○	○				◎